

尚 和 会 会 報

2006
平成18年5月1日

思い出とともに広がる同窓の輪



尚和会総会のご案内

平成18年5月21日(日) 受付11:30~

ホテルアイボリーにて (豊中駅東口すぐ ☎ 06-6849-1111)

- 総 会 オークキッドホール 12:00~12:30
- 立食パーティー オークキッドホール 12:45~15:00
- アトラクション かなうかなこ
- ビンゴゲーム
- 会 費 4,000円 (2002年以降の卒業生2,000円)

かなうかなこプロフィール

4歳からアコーディオンをはじめる。17歳で全日本アコーディオンコンクール総合優勝。高校卒業後すぐにフランスに渡り、パリ市立音楽院、CNIMA国際アコーディオン学院入学。世界的プレイヤーの指導を受け、在学中には全仏コンクールでも第1位を獲得する。

卒業後、沢田研二・藤山直美の音楽劇で共演。

全国のホールでのコンサート、病院や小学校、また旧建築や酒蔵、民家などの歴史的な建造物でのアコーディオンの響きも大切に活動している。

また、2002年10月FMCO・CO・LOの特別番組、「地球音楽家2002」では、「かなうかなこのフランスアコーディオン修行」と題してシャル・ガリアーノやクレモンティーズとのセッションを行なうなど5夜連続6時間の番組を担当。

2003年1月ファーストアルバム「Le ciel ~空~」を、2004年7月にはセカンドアルバム「ひだまり」をリリース。

“世界の車窓から”など、多くのテレビ番組で数多く取り上げられ、番組プロデューサーの中でも話題となる。また、NTTドコモのラジオCMにも楽曲を提供。

ホールコンサートを中心に活動を広げ、奄美の島唄第一人者、朝霧郁恵のゲストサポート、イアン&キャレン(England)をはじめ、アレ・メッセル(Sweden)、ヨハンナ・ユホラ(Finland)をはじめ、海外アーティストとの共演など新しい分野にも活動を広げている。



Contents

尚和会会長・校長ごあいさつ	(2)
学校だより	(3)
母校クラブだより	(4)
教職員人事異動・各期連絡先	(6)
新役員紹介	(7)
尚和会決算・予算報告	(7)
尚和会通信	(8)
同期会報告	(9)
同期会予告	(12)
お便りから	(14)
物故者芳名簿	(15)
平成17年度会報代・協力金	(16)
平成17年度総会・懇親会	(18)

発行——尚和会

発行人 田中 渡

編集責任者 大島 光昭

ご挨拶



尚和会会長
田中 渡

新緑の候、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は尚和会活動に格別のご協力を賜り篤くお礼申し上げます。

バブル崩壊後の長い不況から少しばかり回復の兆しが見え始めた昨今ですが、一方では年金問題や二〇〇七年課題など社会をとりまく環境は一段と厳しさを増していると思われま

す。そのような中、母校は来年創立七十周年を迎え、記念式典のあり方について学校、PTA、定時制振興会等とこれから協議していく予定です。明朗、敬虔、奉仕の校訓を受け継いだ伝統ある桜塚高等学校にふさわしい格式を持った式典と事業が催されることを願い、尚和会としても七十周年記念事業実行委員会を立ち上げ、皆様とともにその慶びを分かち合えるようご指導とご協力をお願いいたします。

又、昨年より期限付きではありましたがホームページの作成に取り組み、今年度は具体的な活動をめざしています。老若男女三万二〇〇〇有余の会員の親交と情報交換が尚和会活動の発展と活性化に不可欠と思われま

す。近年、個人情報保護法の制定にともない名簿の発行と管理が難しくなり、様々な課題が与えられ、その維持に新たな経費が求められています。役員一同一致団結をして事業に取り組みますが皆様方のご協力とご鞭撻を重ね

てお願い申し上げます。

進化し発展を続ける桜塚



桜塚高校校長
西郷 正人

今春も我が伝統の学舎「桜塚」を全日制三百十七名、定時制四十八名合計三百六十五名の若人たちが元気に、しかも確かな進路実績を残して巣立ってゆきました。そして新たな後輩たちを全日制三百二十名、定時制九十二名が瞳を輝かせて「桜」の門をくぐって参りました。いずれの場におきましても大先輩高女第一期生の越水ユリ様には矍鑠たるお姿を持って、又田中尚和会会長様には常に温かく見守って頂いておりますことに、後輩たちは勿論のこと、我々教職員にとりましても大きな力付けとなっております。いつもながら尚和会会員の皆様方の熱いご支援には感謝致しております。誠にありがとうございます。

本平成十八年度は桜塚高校にとりまして二つの大きな意味合いを持つ一年となります。

その一つは、来年度に本校が創立七十周年を迎えることです。平成十七年十二月に田中会長様を委員長として第一回準備委員会を持ち、「記念誌の制作準備・開始」と「実行委員会立ち上げ」を決めて頂き、五月の尚和会総会には「桜塚高校創立七十周年記念事業実行委員会」として進捗報告が出来ますよう準備を進めております。

もう一つは、来年度から大阪の普

通科の通学区域が昭和四十八年以來の九学区編成から、四学区編成へと大規模化します。桜塚でいいますと従来の第一学区と第二学区が合わさった様子です。本校でも第一弾として昨冬に第二学区の中学校に桜塚の事を知って貰うべく、生徒の活動を中心とした映像CDと学校案内パンフレットを送らせて頂きました。桜塚が誇る「学校文化」と「子どもたちの元気な姿」を先ずは正しく理解して頂くことが大切だと考えています。併せて、今桜塚の門をたく生徒たちが、桜塚を誇りとする「自主・自立性の育みの中、勉学・部活動等の両立探究！」の頑張りに加えて、早くから自己に目を向けることや学外に目を向けることを志向する取組みを学校として模索し始めております。

地域に愛され、支えられている桜塚高校を今後とも、より進化し発展を続ける桜塚とするべく生徒はもとより私も教職員も明るく元気に励みたいと思います。今後ともいっそうのご指導ご支援をお願い申し上げます。

新しくなった定時制

定時制教頭

杉本 英世

本年度も引き続き、定時制課程の教頭としてお世話になります杉本です。どうぞよろしく願いいたします。尚和会の皆様には日頃から定時制課程の教育活動にご理解とご協力を賜り深く感謝いたしております。また、各行事等におきまして多数のご参加を

もらい、また格別のご指導ご鞭撻をいただき、誠にありがとうございます。

さて、昭和二十三年の創立以来、豊能地区唯一の定時制高校として長い歴史を持つ本課程におきまして、昨年度大きな改編がありましたのは皆様ご存知のことと思います。

平成十七年度入学生より、普通科単位制の高校となり、前期・後期の二学期制を実施しました。また0時限授業・土曜講座そしてデリバリー給食と新しい試みも始まりました。最初はとまどいながらも手探りで進めながら、二年目をむかえるにあたり、生徒達の中にだんだんと浸透し、ようやく定着しつつあるようです。

また、本年度より、類型選択科目も開講されることとなり、新しい桜塚の特色として生徒の可能性を引き出し、より良い教育の場となるよう、職員一同さらなる努力をしてみたいと考えております。

昨年度は部活動でバドミントン部・剣道部・囲碁将棋部が全国大会に連続出場したのははじめ、定通教育研究会芸能発表の部では奨励賞をいただくなど教科授業以外の場面でも生徒達の活躍が目立ちました。

本年も四十八名の生徒が尚和会の



会員に加えていただくこととなりました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



全日制第58回卒業式



定時制第56回卒業式

学校だより

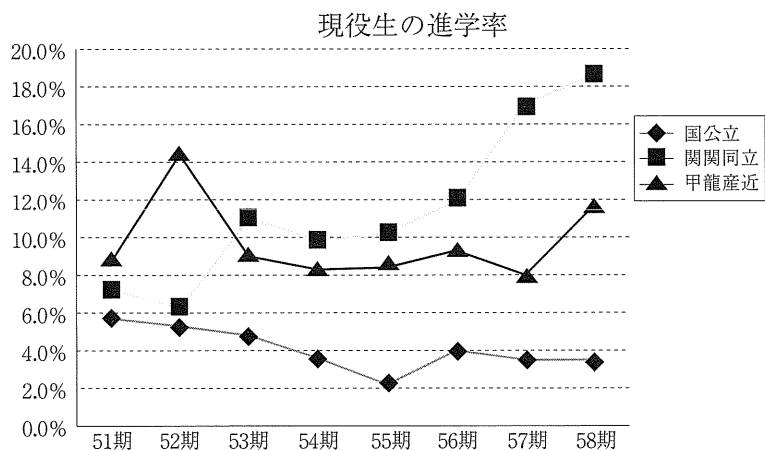
進路状況報告

進路指導部長 松井 常喜

本年度は新課程による初めての入試でした。センター試験での英語リスニングテストの導入・薬学部が六年制になるなどいろいろな変化はありましたが、新課程による学力低下が懸念される現役生が希望する進路を実現できるか大変不安でした。しかし、予想に反して、現役生・浪人生とも、昨年を上まわる結果を残してくれました。

今年の卒業生五十八期生（三二七人）の進路状況ですが、四年制大学へは全体の五九％が進学しました。これは昨年と比べ五％増加しました。これにともない、浪人は一七％と初めて二〇％を切りました。個々の大学をみると、関大・甲南大の合格者数・進学者数とも大きく増加し、過去最大の数になりました。特に関大の合格者数は現浪あわせて初めて一〇〇名を超えました。進学者もグラフが示す通りすべて増加傾向にあります。大学名だけでは判断できませんが、進学実績は着実に向上しています。真面目に最後まで努力した生徒で成功したケースが多く、在校生のほげみにもなると思われる。

次年度から高校の学区再編成が実施されます。今までとは違った地域の違った層の生徒が入学してくるかもしれません。一年生の時から将来を考えさせる進路指導を実施していきたいと考えます。



国公立大学	主な私立大学	
大阪教育大学	関西学院大学	4
大阪外国語大学	同志社大学	1
大阪府立大学	立命館大学	2
大阪府立大学	甲南大学	3
神戸大学	龍谷大学	1
兵庫県立大学	京都産業大学	3
京都工芸繊維大学	近畿大学	3
京都府立大学	武庫川女子大学	2
奈良教育大学	追手門学院大学	1
北海道大学	佛教大学	1
北見工業大学	関西外国語大学	1
徳島大学	大阪工業大学	1
広島大学	京都外国語大学	1
山口大学	桃山学院大学	1
北九州市立大学		9

終わり、始まる

五十八期生を卒業させて

高校五十八期生学年主任 村尾 亮

寒い中にも春の気配を感じさせる二月末日、三二七名の五十八期生は無事卒業式を迎え、新たな進路へと希望をもって旅立ちました。この三年間、彼らをさまざまな形で支えてくださった保護者・教職員・同窓会のみならず、深く感謝いたします。

三年前の四月、桜塚高校に入学して来た彼らを迎えるにあたって、われわれ五十八期生の担任団は「楽しく充実した高校生活」を送ってもらいたいと思いました。それには日々の学習活動はもちろんのこと、学校行事やクラブ活動にも積極的に参加し、個々の生徒がさまざまな面で「居場所」を見つけてもらいたいということでした。この期待に生徒たちは良く応えてくれたと思います。一年次の文化祭におけるクラス演劇や合唱コンクールの際の高さには感動しました。二年次の修学旅行（八重山諸島）では「節度ある元気さ」を発揮し、カヌーやダイビングなどさまざまな体験学習を楽しみ、三年次では自己の将来設計を踏まえて、しっかりと準備しチャレンジしてくれました。私たち担任団にとっても、すばらしい生徒たちに助けられた楽しい三年間だったと思います。

私事ではありますが、私はこの五十八期の卒業とともに十四年間お世話になった桜塚高校から転勤いたしました。その予感に彼らの入学した時からあり、私もこの五十八期生とともに一回かぎりの、繰り返しのきかない三年間を送るのだと思っていました。教師は

「土曜開放講座」のご案内

桜塚高等学校定時制課程では、平成18年度も府民の方も対象にした「土曜開放講座」を開講します。平成17年度に引き続き、「日本文化研究」では笑福亭仁勇氏（笑福亭仁鶴門下）を講師に招き、隔週土曜日（4月～7月、9月～1月まで、年間15回程度予定）午後1時半より本校で開講します。

「日本文化研究」

講師：笑福亭仁勇氏
（高29期 本名 山澤健二）



■講義内容

落語を中心に古典、大衆芸能にふれ、上方文化一般について学ぶ講義です。

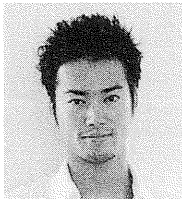
■講師からメッセージ

- 誕生当時から日本語と親しみ、五歳には確実に会得する。
- 18歳で師匠の門をたたき芸名を取得。落語とは深く親しんでいるが、未だ会得していない。
- 各種講演会の講師も引き受け、高校の非常勤講師で「上方文化・芸能」の授業も受け持つ。
- 地域の文化活動にも参加し、全国各地の「まち興し・活性化」にも関わっている。

■お問い合わせは

定時制課程の教頭まで 電話06-6853-2244

俺の原点は桜塚だ！



桐谷 健太
1980年2月4日生まれ
50期生 O型 180cm
九龍で会いましょう
（テレビ）でデビュー
（代表作品）
・ゲロッパ（映画）（2004）
・パッチギ（映画）（2005）
・タイガー＆ドラゴン
（テレビ）（2005）

桜塚に入れば、女の子が弁当を作ってくれるという友人の言葉で進学を決めたが、作ってもらったことは一度も無く、後にデマだとわかった。でも高校時代は、本当に楽しくて幸せだった。色でたとえるとやっぱり桜色。眠たい授業中に窓から入ってくる心地よい風を受けながら、こんな瞬間は、今しかないだろうなと感じるほど満ち足りていた。ここで高校生活を思いっきり楽しんでほしい。

生懸命応援してくれた。先生に対して生意気だったけど、敬意を払うときは、ちゃんと払っていた。今の子はおとなしいと思う。小学生からの夢である芸能界に入るため東京に行くことを決意したが、親に大学へ行かないと許さないといわれ、東京の大学へ進学した。大学の先輩の知り合いに紹介してもらってモデル事務所に入ったのが、この世界に入るきっかけになった。芸能界に入ってからもう目にあつて挫折しそうなったときも精神的に参った時も桜塚の友人がずっとそばにいてくれた。彼らと親のお陰で立ち直れたと思う。今、俳優で頑張っているが、まだ夢は叶っていない。ハリウッドで成功してみたい。

後輩に言いたいことは、何かに迷った時、自分の思ったとおりにありのまま、ガンガン行ってみよう。いやな予感がする時も後のことを考えず、行ってみよう。その予感は当たらないから。形のない自信でいいから、思いっきり何も考えず突き進んで欲しい。やらずに後悔するよりもやって後悔しよう。意外に大丈夫だから。

（ふれあい桜塚 FFA会報第71号 平成17年12月22日）

ついでさまざまな行事について「今年は失敗したから来年は改善しよう」などと考えてしまいましたが、生徒にとって来年はありません。一度限りの貴重な青春の日々を桜塚高校で送っているのです。私もこの三年間、生徒と同じ気持ちで繰り返し送る毎日を送りました。桜塚高校で修学旅行や卒業式をやることはもう二度とないのです。

二年次の春の遠足で私は毎回「イチゴ狩り」に行っており、五十八期生でも同様でした。おいしそうにイチゴをほおばる生徒たちをみながら、私はもうこの楽しさは二度とない、来年繰り返すことはもうない、と感傷的になり「イチゴいちえ」を実感しました。

ともあれ、終わりとは新たな始まりを意味します。桜塚高校から旅立つ五十八期生の新たな出発を祝福して、お礼の言葉にかえさせていただきます。どうもありがとうございました。

高校五十九期修学旅行日記

第二学年主任 山中 義範

五十九期生の北海道への修学旅行は、十月二十五日早朝の伊丹空港から始まった。色とりどりの服装、大きなカバンを持って集まってくる生徒たちを見ていると、これから始まる高校生活最大の行事への期待と興奮が伝わってくる。

修学旅行を想定した春の校外学習でのグループ京都市内見学と、何度も集まり旅行中の活動を決めてきた修学旅行委員の計画が実行に移される時が来た。

興奮からか、機内では立ち歩く生

徒や少し騒がしいものもいたが、飛行機は順調に新千歳空港に着陸、その後バスで札幌に向かう。最初の活動はグループでの市内散策だ。少し肌寒いが四時間の間グループ毎に思い思いに解散地のテレビ塔から、時計台、ラーメン横丁、北大などへと向かう。

見学終了後、バスで宿泊地のニセコ東山プリンスホテルへと移動。途中休憩した中山峠では雪が降り、やはり北海道の冬は早いと感心もし、明日も寒くなるのではないかと不安にもなった。

翌朝には、その不安も消し去ってくれる程よく晴れ、暖かかった。午前午後と学年を二班に分け、この旅行のメインであるラフティング（ゴムボートでの川下り）と各自の希望した体験学習を行った。ラフティングでは、川岸の景色や、山頂に昨日の雪を戴いた羊蹄山を眺めたり、別のボートと水の掛け合いをしたり、川に飛び込む者もいたり、インストラクターの指導の下大自然を満喫した。体験学習では乗馬やパークゴルフ、アイスクリーム作り、釣り、シルバークエストサリ作り、ガラスリッツェン（ガラスの表面に絵や文字を刻む）などを行った。

次の日は、クラス別にバスで登別、モレエ沼公園、白い恋人パーク、神仙沼、余市、洞爺湖方面へと見学に行き、夕刻次の宿泊地である定山溪ホテルに集合した。夕食後は生徒全員集まって、委員が計画したミスター・ミス桜塚や有志の漫才（？）などで楽しんだ。

最終日には、有名な小樽の運河で記念撮影をした後、グループで市内散策。やはり、寿司を食べに行くグルー



プがほとんどで、その後は土産物を買ったりと小雨が降ってはいしたが、北海道旅行の名残りを楽しんだ。

この旅行では、全員集めての注意や指示をするのではなく、生徒がしおりなどで確認したり、事前に希望、計画した体験学習や見学をするなど、当初から生徒の自律、自主性に任せようと計画したことを生徒はよく理解し、行動してくれました。高校生活のページを飾る、思い出深い修学旅行にできたのではないかと思います。

母校クラブだより

男子バスケットボール部

主将 笹部 洋司

バスケットボールを通じて

僕は小中高校とバスケットボールをずっと続けてきました。その中で、人間として最も成長したのはこの桜塚高校の三年間です。

バスケットボールはチームスポーツです。仲間と協力し、どんな大きな壁もひるまずに皆で一步一步超えてきました。

しかし、最初からチームの和があったわけではありません。ぶつかり合いやいがみ合いなどもありました。高校生ともなると、それぞれに自我を持つ人間達が集まるので、まとめるのも苦労します。しかし、毎日のように顔を合わせ、同じ夢を共有するうちに兄弟のように仲良くなりました。

悔しい試合も多々経験しました。目に涙を浮かべながら反省点などを話し合ったこともありました。あつという

間には過ぎ、引退試合の直前には目をつぶり今までやってきたことを皆で振り返りました。各自色々な思いを抱いて試合に挑みました。試合には負けましたが切れることはありませんでした。僕の目には、仲間一人一人の勇姿が焼き付いています。

僕はこの大切な青春時代を満喫できたのは、これまで支えてくれた人達のお陰です。改めてお礼を言いたいと思います。休日まで付き添いをしてくれた先生方、指導者として僕達を導いてくれたコーチ、部員のためにしっかりと仕事をしてくれたマネージャー、支え続けてくれた仲間、クラブ活動を陰ながら支えてくれた両親、本当に感謝しています。「ありがとう」

女子バスケットボール部

顧問 高橋 俊行

女子バスケットボール部として、練習や試合で活動するだけでなく、最近ではチームとしての活動が認められ色々な方面で活躍しています。なみはや国体の公式オフィシャルから、東アジア競技大会のオフィシャル・戦評処理をチームとして依頼されて引き受け、活動してきました。また豊中市においては、中学生対象のバスケットボール講習会も一年間開き部員が中学生の指導にあたりました。先日は、ミニバスケットボールのチームの指導をして小学生と楽しく時間を過ごしました。卒業生も大学でクラブに入りプレーを続ける人、学校の先生になり指導をしている人、社会人を続けながら中学生を教えている人と、卒業してもバスケットボールに携わってくれている人が増え

ました。

チームとしても近畿大会出場をはじめ、大阪招待出場、新人戦八年連続中央大会進出、豊中市交歓大会優勝など結果を残し、個人も年度優秀選手に選ばれたり、団体最終選考会まで残るレベルの選手も増えました。最近ではケガに悩まされて苦しんでいる状態ですが、練習に多くの卒業生が参加してくれて活気のある練習をしています。これからバスケットボールを通して多くの事を得たいと思って練習に励んでいます。

ラグビー部

マネージャー 花高 みずき

ラグビー部は、厳しいところもあるけど真面目でいつも部員とマネージャーのことを考えてくれている優しい顧問の渡辺先生の指導のもと、個性豊かにぎやかな十八人の部員、部員思いの四人のマネージャーで、毎日楽しく活動しています。

夏休みには八月の初めに合宿があった、暑さと虫に負けずに練習に励む毎日です。

春と秋と冬には公式戦があります。

公式戦はどの試合よりも気合いが入っていて、チームの雰囲気もピリッとしています。それでも全員がボールに集中していて、試合中の部員さんはいつもよりかっこよくみえます。

楽しい部活なんで、今からでも入部希望の人は見学にきて下さい。

“夢の舞台、花園ラグビー競技場!!”

陸上部

マネージャー 中田 千晴

私達は部員男子十一名、女子十名、

マネージャー四名で、毎日放課後練習しています。他校に比べると練習時間が少ない環境の中、その限られた時間内で、顧問の野村先生の指導のもと、効率の良い練習を行ってきました。

昨年度は四月からシーズンが始まり、五月には地区予選から半数以上の部員が中央大会に出場、惜しくも近畿大会には出場はなりませんでしたが、決して手の届かないものではないと実感できました。先輩方の引退後、八月の高校総体に向けて夏季合宿も行い、更に練習を重ねていきました。

十月には地区別秋季大会で、女子は総合三位というとても良い成績をおさめることができました。その後十一月、一月に高校駅伝がありました。男子はメンバー全員で、女子は短距離メンバーからの応援もあり最後までタスキをつなぐことができました。

そして春のシーズンに向けて練習に励みました。新三年生は六月に最後の公式戦を迎えます。それが近畿大会への最後のチャンスです。新三年生は最後のチャンスを無駄にしないように、新二年生はベストを尽くして、まずは近畿大会への切符を手にして欲しいと願っています。

個人競技だからこそ仲間との励まし合いを大事にして、少しでも自分を超えることを目標に、夢は大きく全国大会です。

水泳部

顧問 河野 太

個性豊かな五十九期生と真面目な六十期生が個々の目標に向けて日々厳しい練習に取り組んでいます。競泳は特に物理的要素を必要とする為、身体的

鍛錬においても常に「泳ぐ」ことを意識することが要求されます。それを通して、考える力を養い、速く泳ぐためには水の中でどの位置にいればいいのか、腕や脚は胴体に対してどの位置にありどの方向で力を出せばいいのか、また力を出すタイミングなど複雑に組み込まれた歯車のような泳ぎのメカニズムを考え、実践していくことを目的としています。

また一度スタートをすれば水の中で信じられるのは己の実力のみという過酷な状況の中から困難に自分で立ち向かう力を養うことも目的としています。

このような精神的にも身体的にも厳しい水泳部ではありますが、シーズンを問わず卒業生が現役生を励ましに来てくれ、現役生も工夫を凝らし単調なトレーニングに刺激と楽しさを導入し活気ある部活動を行っております。また、冬場には温水プールにて他校との合同練習も行いました。今後も更なる進化を目指し、己の心、技、体のすべてを伸ばして快心の一泳を追い求めていきたいと思っています。

バドミントン部

主将 吉岡 昌美

今、バドミントン部は女子十三人、男子八人の計二十一人の部員がいます。体育館が使えるのは平日二回と休日の二回を合わせて四回で、体育館が使えない日は外練をしています。平日の練習時間はとても短く、他校のように時間には恵まれてはいませんが、皆が府大会という年に三回行われる大きな大会に向けて良い成績を残すために、毎日頑張って部活に取り組んでいます。

ます。

部活内容としては、コーチに来て頂いているので、コーチに教えて頂いた事ややつておくよう言われた事を主なメニューとし、それをやり終えた後の残り時間を部長が考えたり、あるいは部員でミーティングを開き、何をしたいかなどを話し合っ、メニューを決めています。

部活全体の雰囲気としては、男女とも仲が良く、良い意味でのライバル心を胸に秘め、一人一人が頑張っているのでもっと良い雰囲気です。

次の府大会で二年生は引退なので、それまでに二年生は自分の力を出し切る事を、一年生はまた新しく入部してくる人に伝統を伝える事を目標に頑張っています。

吹奏楽部

顧問 河村 光子

今年度は五月に定期演奏会を終えて三年生が引退したあと、中心となる二年生が十二名という少人数で不安なスタートでした。幸い一年生が二十名をこえて入部してくれましたが、初心者も多く体育祭の時にはまだ音も充分出ない部員もいる状態でハラハラさせられました。

そして夏のコンクール。指揮者のこと、練習の進め方など生徒達にとっても気の重いミーティングを重ねましたが、外部指導者に助けて頂きながら少しずつ力をつけていきました。コンクール直前の音の変わりようは見事なほどで、部員全員の熱い思いが音になっていったと思います。

秋の文化祭の頃には、一年生も積極的に音楽を作っていくことができるようになっていきました。

うになりました。

楽器の上達はやはり練習しかないの、土、日の休みもなく吹き続けます。いくら好きなこととはいえよくあんなに吹いているなと思うこともあります。でも思い通りの音が出た時やアンサンブルが決まった時の喜び、仲間と共に音楽する楽しさが練習を支えているのでしょう。

今年もまた定期演奏会の準備を始めるときになりました。協賛金のおかげ、パンフレッド作りなど毎年のことですがひとまり大きくなった生徒達は音楽作りだけではなく、部の運営にも一生懸命と取り組んでいます。先輩方の温かい御支援にはいつも感謝しています。今後共どうぞよろしくお願い致します。



グラウンドより校舎を望む

平成18年度 評議員会及び理事会予定表			
評議員会			
第1回	H18年9月2日（土）	会費制	会場未定
第2回	H19年1月14日（日）	新年評議員会 会費制	会場未定
第3回	3月24日（土）	尚和会議室	
理事会			
第1回	H18年5月13日（土）	尚和会議室	
第2回	9月2日（土）	会費制	会場未定
第3回	11月11日（土）	尚和会議室	
第4回	H19年1月14日（日）	新年理事会 会費制	会場未定
第5回	3月24日（土）	尚和会議室	

教職員人事異動（平成十八年度）			
【全日制課程】			
退職	重松 洋子（教諭 英語） （本校再任用へ）	着任	筒井 康夫（教頭） （桜塚高校定時制より）
来住	隆一（教諭 書道） （市岡高校より）	植松 知美（教諭 社会） （近江兄弟社高校へ）	桑原 大祐（講師 体育） （吹田養護学校へ）
早川	周子（実習助手 図書） （専任主事 事務）	古森 秀昭（教諭 数学） （守口東高校より）	中川 潤一（講師 英語） （大手前高校定時制へ）
退職（再任用）	越智 秀樹（教諭 美術） （鳥飼高校より）	山崎 敏雄（教諭 美術） （府教委教育政策室へ）	楠井 輝明（課長補佐 事務） （府教委教育政策室へ）
転出	中村 恵（教頭） （茨木西高校校長へ）	池本 進（教諭 体育） （吹田高校定時制より）	山田 昌稔（教諭 英語） （池田北高校より）
村尾	亮（教諭 社会） （少路高校へ）	奥 登（講師 理科） （桜塚高校より）	金 信江（実習助手 理科） （吹田高校より）
岩澤	格（教諭 社会） （箕面東高校へ）	田名瀬雅彦（教諭 数学） （東豊中高校へ）	高橋 俊行（教諭 体育） （福井高校へ）
松本	伸子（教諭 英語） （東豊中高校へ）	中島 英樹（実習助手 理科） （島本高校へ）	中村まどか（講師 理科） （市岡高校へ）
地主	勝（主査 事務） （茨木高校へ）	馬場 将夫（教諭 英語） （本校定時制再任用へ）	筒井 康夫（教頭） （春日丘高校定時制より）
【定時制課程】			
退職	早崎 薫（教諭 家庭） （西野田工科高校へ）	田中 恵（講師 国語） （豊中高校、東淀川高校へ）	三村 仁（講師 理科） （大手前高校定時制へ）
伊藤	将史（講師 体育） （近江兄弟社高校へ）	桑原 大祐（講師 体育） （吹田養護学校へ）	中川 潤一（講師 英語） （大手前高校定時制へ）
楠井	輝明（課長補佐 事務） （府教委教育政策室へ）	大崎佳津子（教諭 英語） （西成高校より）	内田 浩文（教諭 理科） （北野高校定時制より）
宮崎	敏雄（教諭 体育） （淀川工業高校定時制より）	池野 昌弘（教諭 体育） （西野田工業高校定時制より）	浦谷 悠子（教諭 家庭） （新規採用）
磯原	健志（講師 理科） （吹田高校定時制より）	森田 牧人（課長補佐 事務） （今宮工業高校主査より）	着任（再任用） 森本 規司（教諭 理科） （春日丘高校定時制より）

各 期 連 絡 先														
期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話
女1	越 水 ユ リ	06-6852-8755	高22	平 本 裕 一	06-6855-2614	高52	山 脇 竜 介	06-6473-9607	定29	寒 川 悟	06-6607-0580	定29	寒 川 悟	06-6607-0580
女2	北 川 富美子	0798-74-3024	高23	後 藤 保 二	06-6373-7380	高53	仁 木 安 範	06-6397-4491	定30	大涯地 みゆき	06-6333-5761	定30	大涯地 みゆき	06-6333-5761
女3	菅 野 万喜恵	06-6852-0020	高24	梅 田 純 子	06-6329-6309	高54	木 村 克 也	06-6848-7268	定32	市 村 孝 浩	06-6841-0416	定32	市 村 孝 浩	06-6841-0416
女4	永 井 徳 子	06-6942-1968	高25	小 合 孝 子	06-6855-3604	高55	井 上 大 樹	06-6475-1946	定34	清 水 美 佳	072-761-3323	定34	清 水 美 佳	072-761-3323
女5	加 藤 恵 美	06-6872-6248	高26	金ヶ江 裕 之	06-6852-1224	高56	亀 井 み え	06-6393-1017	定37	渡 部 二 郎	06-6863-0058	定37	渡 部 二 郎	06-6863-0058
女6	青 木 操 子	06-6843-2552	高27	東 克 則	06-6451-3866	高57	山 田 富 之	06-6863-0785	定38	中 村 保	06-6332-7703	定38	中 村 保	06-6332-7703
女7	黒 田 長 子	06-6854-5432	高28	市 田 隆 士	0595-52-0715	高58	高 田 俊 輔	072-753-3164	定39	森 本 真裕美	06-6849-7859	定39	森 本 真裕美	06-6849-7859
女8	中 村 陽 子	06-6844-1570	高29	山 澤 健 二	06-6399-7677	定1	吉 本 喜代子	072-722-2075	定41	奥 田 康 弘	06-6388-7339	定41	奥 田 康 弘	06-6388-7339
高1	安 達 良 子	072-721-3901	高30	木 村 慶 子	06-6853-9213	定3	上 田 孝 彦	06-6853-2162	定42	菊 永 以 言	06-6853-6044	定42	菊 永 以 言	06-6853-6044
高2	菊 池 芙 美	06-6852-4117	高31	榎 香世子	06-6393-7216	定5	橋 本 昌 員	072-793-7650	定43	山 田 辰 典	06-6333-1785	定43	山 田 辰 典	06-6333-1785
高3	谷 田 探 成	06-6314-0550	高32	浜 辺 伊都子	06-6866-6789	定6	木 田 隆 幸	06-6864-2452	定44	大 塚 俊 二	072-762-7873	定44	大 塚 俊 二	072-762-7873
高4	中 右 吉 信	06-6855-5372	高34	山 口 誠	072-894-1848	定7	川 勝 義 美	06-6854-4997	定45	大 塩 昇 司	06-6331-5766	定45	大 塩 昇 司	06-6331-5766
高5	宮 口 一 郎	06-6852-4859	高35	川 嶋 道 代	072-729-6099	定8	田 邊 昭 夫	06-6843-0952	定46	岡 田 智 寛	06-6333-5996	定46	岡 田 智 寛	06-6333-5996
高6	北 まち子	06-6865-3131	高36	安 藤 昌 博	06-6832-7930	定9	中 本 賢 一	06-6854-3550	定48	野 口 光 弘	06-6393-3669	定48	野 口 光 弘	06-6393-3669
高7	関 高 明	0797-88-5603	高37	高 崎 建 治	06-6623-6801	定11	永 井 敏 輝	06-6852-0333	定49	大 鳥 正 登	072-761-1036	定49	大 鳥 正 登	072-761-1036
高8	森 田 司 朗	06-6872-3329	高38	堀 田 繁	054-248-8078	定12	笹 部 修 造	06-6852-0475	定50	福 永 敦 哉	06-6862-7542	定50	福 永 敦 哉	06-6862-7542
高9	安 浦 杲	072-737-0068	高39	須 崎 康 広	072-752-6441	定13	中 岸 澄 江	06-6843-5737	定51	徳 留 三 香	06-6866-6994	定51	徳 留 三 香	06-6866-6994
高10	唐 渡 吉 則	072-752-4548	高40	堂 前 直 子	06-6336-7265	定14	杉 本 土 生	072-728-1497	定52	本 郷 美由紀	06-6841-0860	定52	本 郷 美由紀	06-6841-0860
高11	吉 田 和 久	06-6857-0352	高41	坂 口 大 介	06-6303-4831	定16	森 島 作 蔵	06-6857-6219	定53	山 下 武 徳	06-6857-3239	定53	山 下 武 徳	06-6857-3239
高12	斎 藤 嘉 明	072-738-4647	高42	谷 尾 紀 江	048-946-3601	定17	前 田 政 治	06-6855-8451	定54	山 本 雄 助	072-724-2347	定54	山 本 雄 助	072-724-2347
高13	細 川 和 彦	06-6849-6879	高43	横 尾 さち子	06-6854-0026	定18	中 島 健 二	072-722-8153	定55	高 橋 秀 彰	06-6852-4438	定55	高 橋 秀 彰	06-6852-4438
高14	佐 藤 勝 哉	06-6854-0095	高44	河 野 太	06-6476-1102	定19	飯 田 悦 弘	06-6855-3440	定56	越 智 康 裕	06-6868-2275	定56	越 智 康 裕	06-6868-2275
高15	大 畠 光 昭	06-6841-8135	高45	澤 田 良 一	072-728-8251	定21	児 玉 幸 子	06-6862-1946	修1	矢 野 和 美	090-1904-0180	修1	矢 野 和 美	090-1904-0180
高16	中 務 公 子	06-6858-4509	高46	原 田 博 司	072-738-3359	定22	西 田 惣 一	06-6850-2955	修2	能 勢 優 紀	06-6841-2919	修2	能 勢 優 紀	06-6841-2919
高17	福 本 育 馬	06-6333-6636	高47	佐 藤 英 春	0798-67-1666	定23	豊 隆 司	06-6843-2771	修3	畠 山 貴 徳	072-728-1150	修3	畠 山 貴 徳	072-728-1150
高18	北 川 悟 司	06-6843-1336	高48	新 造 誠	072-722-5963	定24	日紫喜 富 美		修4	竹 田 大 河	06-6841-4820	修4	竹 田 大 河	06-6841-4820
高19	奥 田 敏 輝	06-6843-9397	高49	乾 正 義	06-6471-6389	定25	大 町 裕 次	06-6862-7083	修5	三 島 祐 貴	072-722-7482	修5	三 島 祐 貴	072-722-7482
高20	郡 守 男	079-565-2627	高50	橋 本 直 樹	072-751-3235	定27	稲 井 幸 雄	072-728-0955	修6	野 口 雄 樹	06-6843-7595	修6	野 口 雄 樹	06-6843-7595
高21	山 本 登志恵	06-6924-3544	高51	中 村 寿 一	06-6840-0173	定28	真 下 保	06-6385-6190						

尚和会の思い出

高校十六期 秋山日東志

私が尚和会と関わりを持つようになったのは、昭和六十一年の暮れ頃からであり、卒業（昭和三十九年）後初めての同期会を開催するためクラス幹事として招集されたのがきっかけであった。

当時、私は不明者リストに名を連ねており、今回会計に就任した中務さんが住所を探し当て連絡をくれたものであった。当時の会長は高津会長であり、初めての男性会長であった。以後谷田会長、荻野会長を経て田中氏が会長に就任する四年前、会計監査を担当することになった。

二十一年間尚和会に携わり、多くの先輩達といっしょに仕事をさせてもらったのは非常にいい経験であったが、遂に、多くの後輩達といっしょに仕事をする機会には恵まれなかった。若い期の人達の参加が非常に少ないのである。最近になって、若い人達が参加してくるよう「活性化委員会」が発足し、いろいろ検討がなされた結果、少しは効果が表れてきたようにも感じられるがまだまだ参加が少ないのが現状である。

財政面では会報有料制という窮余の一策を講じることが可能であったが、人的な面で窮余の一策はあり得ない。若い期の人達が参加してくれないことには組織として成り立たないのである。尚和会には引き続き努力をお願いしたいし、若い期の方に対しては是非、理事会等への参加をお願いしたい。将来、若い人達が中心になって運営してくれることを願うばかりである。

尚和会 平成17年度決算報告・18年度予算

[収支決算] (自:平成17年4月1日 至:平成18年3月31日) (単位:円)

科 目	予 算	決 算	差引過不足	備 考	18年度予算
収入の部					
入会金	1,452,000	1,452,000	0	17年3月卒363名(全日310名、定時53名)@4,000円	1,460,000
会報代	1,700,000	1,945,000	245,000	1,945名	1,700,000
尚和会協力金	2,000,000	2,599,550	599,550	1,207件	2,000,000
広告収入	40,000	0	▲40,000		40,000
利息収入	4,000	3,773	▲227		12,000
雑収入	0	10,000	10,000	名簿売却代他	0
計	5,196,000	6,010,323	814,323		5,212,000
支出の部					
事務費	100,000	28,686	71,314	事務用品他	100,000
振込手数料	120,000	128,005	▲8,005	内、郵便振替126,460円	180,000
通信・交通費	300,000	230,518	69,482	会議案内等の葉書印刷、宛名シール他	350,000
会合費	300,000	311,833	▲11,833	理事会及び各委員会合費	350,000
慶弔費	100,000	46,211	53,789	学校行事祝儀他	100,000
会館維持費	50,000	1,124	48,876		50,000
卒業生記念品代	100,000	100,000	0	卒業証書入れ	120,000
会報発行費	2,200,000	2,133,540	66,460	11,000部、郵送8,509件	2,200,000
総会費	700,000	652,959	47,041	食事、アトラクション、雑費	700,000
東京支部援助金	150,000	150,000	0		150,000
同期会開催助成金	500,000	400,000	100,000	50,000円×8件	500,000
予備費	500,000	20,000	480,000	定時制全国大会出場(剣道・囲碁・バドミントン)報奨金	700,000
計	5,120,000	4,202,876	917,124		5,500,000
1. 差引当期収支	76,000	1,807,447	1,731,447		▲288,000
2. 前期繰越金	2,207,233	2,207,233			2,014,680
3. (1+2) 合計	2,283,233	4,014,680			1,726,680
4. 尚和会積立金等繰入		2,000,000		積立金へ0円、事業積立金へ2,000,000円	
5. 尚和会積立金等取崩		0			
6. 次期繰越金		2,014,680			

[貸借対照表] (平成18年3月31日現在) (単位:円)

借 方	貸 方
現 金	197,147
普 通 預 金	5,509,259
定 期 預 金	14,518,274
定 額 貯 金	9,272,000
未 収 入 金	0
仮 払 金	0
合 計	29,496,680
預 り 金	1,482,000
尚 和 会 積 立 金	15,000,000
尚 和 会 事 業 積 立 金	11,000,000
次 期 繰 越 金	2,014,680
合 計	29,496,680

以上、報告いたします。

平成18年3月31日

財務担当副会長(高13期) 細川初彦
会 計(高12期) 久瀬恭子
会 計(高12期) 吉田友子

監査の結果、誤りの無いことを報告します。

平成18年3月31日

会計監査(定13期) 中岸澄江
会計監査(高16期) 秋山日東志

KIIP (廣済堂国際インターンシッププログラム) について

- メルボルン社会研修コース
- コフスハーバー空想研修コース
- バンクーバー社会研修コース他、グループの目的にあわせてアレンジいたします
- 研修期間: 2~8週間
- 研修場所: オーストラリア(シドニー・ブリスベン・メルボルン) カナダ(バンクーバー)
- 参加資格: TOEIC500以上(コースにより異なります)

グループ向けに個別アレンジ
廣済堂オリジナルプログラム

国際
インターンシップ事務局が
提供するプログラム

英語力を大幅に
伸ばす!
English+
プログラム

本気で働く!
インターンシップ
プログラム

- 研修期間: 1年以内
- 研修場所: オーストラリア(シドニー・ブリスベン・メルボルン) カナダ(バンクーバー) イギリス(カンタベリー)
- 研修期間: 6週間以上
- 研修場所: オーストラリア(シドニー・ブリスベン・メルボルン・パース) カナダ(バンクーバー)



●お問合せ先 ● 株式会社廣済堂 国際インターンシップ事務局
〒541-0052 大阪市東淀川区東中津3-4-16 廣済堂ビル5F
TEL.06-4964-1771 FAX.06-4964-1773 E-mail: intern@net.kosaido.co.jp
フリーコール: 0120-956-032 URL: www.kosaido.co.jp



以上の方々为新役員として平成十八年三月十八日開催の第五回理事会、第二回評議員会において選任承認されました。

東京支部長
高十一期 斎藤 良和

会計
高十六期 中務 公子

尚和会平成十八・十九年度 新役員紹介



副会長(総務担当)
高十一期 吉田 和久



副会長
定八期 田邊 昭夫



会長
高十一期 田中 渡



副会長(行事担当)
高十五期 上田 幸子



副会長(広報担当)
高十五期 大畠 光昭



副会長(財務担当)
高十三期 細川 和彦



会計
定十三期 中岸 澄江



会計監査
高十七期 上村 学



会計監査
高三期 中村千穂子

尚和会通信

広報担当副会長 大畠 光昭

一、尚和会会報の無料配布

（卒業後五年毎）
（再掲）

無料配布対象期

その期が、卒業後五年経過ごとに、住所判明者を対象として全員に送付する。

目的・理由

会報有料制は、約二万人にも及ぶ無料配布の結果財政が逼迫し、やむなく採られたものであります。これを機に多くの会員の方が危機を認識され、それ以降会報代・協力金が増加し毎年プラス収支に転じることができました。一方、会報代納入を一度忘れられる

二、「同期会開催支援奨励助成金制度」

（再掲）

一、目的

新生尚和会を構築し、創造的な事業活動を展開するために、同期会の活性化に取り組む必要がある。その意味で、同期会の開催を支援、奨励する目的の制度である。

二、助成金交付対象期

尚和会会員が同期会を計画、開催実施しようとするもので、その同期会が卒業五周年以降五周年単位で開催される期であること。なお、卒業後最初の同期会が右記の周年でなくても助成金を交付する。

三、助成金の額

五〇、〇〇〇円とする。

四、申請の手続き

開催する同期会の代表幹事が書面（同期会助成金交付申請書）にて、尚和会会長宛に同期会開催一ヶ月前迄に提出又は郵送する。

五、助成金の交付

「同期会助成金交付申請書」受理後速やかに同期会開催迄に支払う。

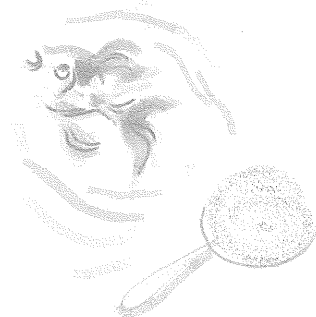
平成十三年度九月一日施行

なお、同期会に対する助成は同じ期が同じ周年時期に複数の場所で開催されても、尚和会からの助成金交付は、その期に対して一回限りです。また、クラス単位での開催も対象外です。

三、在校生クラブ活動に報奨金制度

（再掲）

クラブ活動に顕著な成績を残したクラブに、活動費の一部を助成する制度です。助成対象は府下大会にて優勝またはそれに準ずるものとします。在校生諸君の活発な活動を期待します。



尚和会会報有料制について

財務担当副会長 細川 和彦

今お読みの尚和会会報は有料制です。

●名称 会報代

●年1000円 1,000円（同封の払込用紙にてお振込み下さい）払込用紙紛失の方は郵便口座番号00930-3-31860 加入者名「尚和会」宛お願いします。

●会報無料発送対象者

1. 旧職員（住所判明者全員）
2. 平成14年3月卒業生～平成18年3月卒業生（全日制54期～58期、定時制52期～56期、定通併修2～6期）
3. 高女1、6、高3、8、13、18、23、28、33、38、43、48、53、定6、11、16、21、26、31、36、41、46、51、卒業生住所判明者全員

●会報発送者

会報代1,000円及び協力金納入者

個人情報保護対策について

尚和会では、会の運営に必要な皆様の個人情報をお預かりしています。お預かりする個人情報は個人情報の保護に関する日本の法令その他の規範を厳守して以下の目的の範囲でのみ利用いたしますので、何卒、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■利用の目的について

- ①尚和会会報の発行・発送
- ②各役員会開催案内等の告知文書の発送
- ③尚和会が会の運営を遂行するにあたり、必要とする年会費徴収
- ④その他、会の活性化を図るため、必要と思われる作業等合法的な目的のために活用する場合

■ご提供いただいた個人情報については、尚和会が責任を持って管理いたします。

■尚和会は、ご提供いただいた個人情報を正確に処理いたします。

■尚和会では、信頼に足ると判断した外部の企業に、個人情報のデータ処理ならびに発送作業を委託することがあります。

■ご提供頂いた内容は、本人の承諾なしに学校・同窓会関係者以外の第三者に開示することはありません。

ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものとします。

- ・法令の規定による場合
- ・ご本人ならびに公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合。

■個人情報は、原則として本人にかぎり、開示・訂正・削除を求めることができます。

お問合せ先
〒561-0881 豊中市中桜塚4-1-1
大阪府立桜塚高等学校内 尚和会事務局
TEL06-6853-2244/FAX06-6853-0825

	高女 1期～8期	併中 1期～2期	高 1期～58期	定 1期～56期	定通併修 1期～5期	旧職員	現職員	現職員 (定時制)	合 計
会 員 数	2,061	229	26,337	4,239	76	734	33	18	33,727
物 故 者	380	18	656	90	0	151	0	0	1,295
住所不明者	241	31	6,020	2,112	10	192	0	0	8,606
住所判明者	1,440	180	19,661	2,037	66	391	33	18	23,826
判 明 率	88.3%	86.5%	77.1%	50.1%	86.8%	73.8%	100.0%	100.0%	74.4%

尚和会会員数 単位：人

尚和会ホームページ開設に向けて

広報委員 高校二十八期 乾 憲隆

尚和会の公式ホームページ（HPと略します）を開設する事となりましたので、経緯を報告させて頂きます。

会報の無料配布による財政の逼迫から、平成十五年より会報を有料化した事で、財政はプラスに転じたものの、会報代の納入を忘れると会報は発送されず、会報を見る事が出来なくなり、尚和会への関心が薄れ、尚和会活動の先細りが懸念されました。

平成十六年七月、田中会長を囲んで十一期から五十三期までの幅広い世代の理事十数名により非公式ながら尚和会活性化委員会を立ち上げました。財政難に喘ぐ尚和会の現状を分析し、①協力金が集まらない。②魅力ある活動が出来ていない。③若い世代には関心がない。と言った事により「尚和会離れ」が起きていると結論しましたが、反面「同期会は頻繁に行われている」という現状も認識し「どの様にして、尚和会活動を知ってもらい、尚和会に興味を持ってもらうか？」という議論を重ね、HPによって尚和会の活性化が出来ないかと考えました。

HPは時代の流れです。広い世代、多くの会員に尚和会活動に参加してもらい、会報とも協調し幅広い尚和会活動を展開する事が会費収入の増加に繋がり、運営の安定化を図る事が出来ると期待します。試行期間は三年間、様々な可能性にチャレンジします。

平成十七年三月の理事会に於いて広報委員会活性化部会（部会長・十八期北川氏、副部会長・十八期渋谷氏）の

設置を提案、三月二十六日の評議委員会に於いて承認されました。五月の総会決議を経て、九月三日の理事会にて大型プロジェクトを用いたプレゼンを行い、HP開設の意義、方針、事業予定を皆様方に承認頂き、作成作業を開始しました。

この会報発行時には試行版を開設しております。尚和会のHPアドレスは <http://shs-showakai.com> です。

また随時更新情報をメールいたしますのでHPから皆様のアドレスを登録下さい。

同期会報告

豊中高女一期生会 満八十歳通過記念

幹事（旧姓）矢野、宮田、奥村
櫻谷、中出、岡島

日時：平成十七年三月二十四日
場所：ホテルアイボリー

三月二十四日嬉しい一日でした。桜は、まだ咲きかけの時季でしたが、皆様の肩先に八重桜が笑っておりまして、お互いさまにどちらを向いても、よくぞまあ八十歳を生きてはる！という不思議というか全員が全身で感じました？ 全人教育を受けたおかげでしょうか。感謝あるのみです。緑美しい高女期の校旗を見て感動したというお声にも、ただただ感謝いたしました。折角ご縁を頂いて八十歳過ぎまで生かされてきた私たちです。もう一寸がんばらないでがんばりましょう！来年の幹事さんよろしくね。



豊中高女二期生 傘寿の会

高女二期生 報告係

日時：平成十七年三月三十日（水）

場所：ホテルグランヴィア大阪

出席者：四十三名

桜の開花を待たれる快晴の日、二十階の見晴しの良い会場で開かれました。九州はじめ遠方からも、喜々として集われて、大正、昭和、平成と行き抜いた喜びを、分かち合う幸が満ちていました。

十一時半に写真撮影をし、お帰りの時には、お渡し出来ました。

開会の辞、物故者への黙祷、傘寿の祝杯に始まり、美味しい会食となり、



その間に、自己紹介が続きました。出席出来なかった方達の、葉書や電話による、近況報告もありました。

ノーベル賞候補になられたかも知れない、三十年前からのDNA研究の同級生のことや、夏の合宿訓練で、食堂にて会食の時、初代の近藤校長先生が「女は黒豆ジュースを飲むと母乳がよく出るんだよ」とおいしいジュースを出して下さったこと。

徹底したお掃除で廊下はピカピカ。戦時中の警報下の夜中に家から走って行った事。家庭的だった学生生活等、走馬燈のように、有々とかけめぐります。

銘々に挨拶、話し合い、個々に写真撮影と名残りを惜しみつつ、四時間はまたたく間に過ぎ、満足し、全員元気で、二年後の再会を約束しつつ閉会しました。

豊中高女四期生会 六十周年同期会

幹事 田畑、長岡、岡田、山川
大久保、酒井

豊中高女四期生の卒業六十周年同期会は、五月二十三日、大阪万博の太陽の塔が見えるホテル阪急エクスボークに五十三名が集いました。

創立後もない昭和十五年、完成したばかりの美しい新校舎に入學した私たちは、翌十六年大東亜戦争の開戦、そして五年生では工場動員で鉛筆を鋸に持ち変えました。

戦況は悪化を辿り、昭和二十年三月から空襲は激化し、卒業式は無事出来たものの、一トン爆弾が家が吹っ飛び、焼夷弾の雨の中を逃げ惑う等、命がらの目にあう人も……。この時代ならではの経験をした同期生は心がより固く結ばれました。

入学時は、満州への卒業旅行という事で積み立てをしたのも消え、アルバムも完成近くに空襲で焼け去り、終戦前の三月末、全員命無事に卒業したのが有難い事とふり返った卒業六十周年でした。

さまざまな苦勞を共にした旧友との語らいは入念かつしく、二次会では幹事のフラダンスに笑い、中条さんのラテンミュージックに茨木さん（二人とも旧姓）のシャンソンで楽しみ、一同で歌を歌い、最後は敗戦後は歌われずに忘れかけていた校歌を高らかに合唱し、来年の再会を期して別れました。

十八年度は山中嘉子さん、大江悦子さん、永井徳子さんが幹事を引き受けて下さいました。

今年は八月に馬場恵美子さん（汲田

さん)、九月に佐野加子さん(伊藤和加子さん)が逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



豊中高女五期生会 六十周年同期会

幹事一同

日時：平成十七年四月二十一日(木)
場所：リーガロイヤルホテル大阪
ダイヤモンドルーム

出席者：八十五名

春の名残りと若葉の香り双方を感じられる四月下旬、たくさんの方にご参加頂き、盛大に会を行うことができました。

受付にお見えになる皆様、にこやかで「ご無沙汰しております。」「あら、前回もお会いしたわよ。」「あら、ごめんなさい。(笑)」などと、言葉を交わ

せば、すぐに旧友同士に戻りました。会が始まる前に別室にて記念撮影を致しました。とても喜寿にはみえないのではないのでしょうか？

宴の方は、お食事を頂きながら進み、テーブル毎に近況を語ったり、昔の思い出話に花が咲いたりと六十年前の乙女達のおしゃべりは、止まりませんでした。そんな中、広美さんが、みんなの前で、空襲で被爆された痛々しい傷痕を見せながら、様々な事をお話し下さいました。一同、大きく頷きながら、耳を傾けました。私達の青春は、戦争なくては語れない年代です。遠い昔の出来事です、みんな当時の事を生々しく思い出しました。

軍需工場で働いた事、友人を焼夷弾で失った事など語り出すとキリがないのですが、改めて貴い犠牲の上に今の私達が生きていることを深く心に刻みました。

この会報をお読みになっておられる若い方々にもお伝えしたいと思えます。

そのような苦難の時代を乗り越えて尚、若々しく、はつらつと生きている私達は、皆それぞれに人生を前向きに生きるヒントや知恵をいっぱい持つておられるようで、会話の中にも、ちらほら聞かれました。

楽しい時の過ぎるのは早いもので、あつと言う間にお開きとなりました。最後になりましたが、六十周年を記念して、尚和会よりお祝い金五万円を頂戴致しました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。



高校三期 京の集い

幹事 谷田 探成

一年前の東京での三期会に出席した折、偶々あいさつさせて頂いた中で、来年は久しぶりに京都でもと口を開いたとたん、ぜひにと賛成者が多くとうとう年が変わってすぐに京都での会場やら会費、日程等の準備にとりかかりました。例によって同期の幹事の方々に助けを借りて、早々から大体の出欠調査をした所、何と百名以上の出席予定との感触を得て会場も見晴らし展望抜群の二条鴨川畔に建つ「ホテルフジタ京都」に決定。



十月二十六日当日は快晴の日和に恵まれて、約百余名が関東又は海外からも定刻早めに集合して予定通りのスケジュールをこなし、久しぶりの京料理を、椅子テーブルで楽しんで頂いた。鴨川べりに東北に開いた明るい会場は大抵では一寸見当らない風景で、約三時間の集いはあつという間に過ぎてしまった。同期会にいつも思う事は、高校時代の友人はいつまでも昔を思うからか、すぐに高校時代にタイムスリップできるという特徴が有る反面お互いによく生き抜いてきたなあと感激させられます。

翌日も快晴で希望者のみ約三十五名が小生知り合いの高僧が門主をしてもらえる「百萬遍知恩寺」にて集合。本堂にて御門主直々の物故者のご回向を頂き、有難い法話を聞かせてもらい、更に百万遍念仏で有名な大きい数珠繰

りをして全員極楽往生の功德をたつぷりと味わいました。お昼は大広間にて鉄鉢弁当ともいう精進料理を頂戴して、おおいに法悦を感じてもらいました。

更に昼からはタクシーで「黒谷、金戒光明寺」へまわり執事長の挨拶、堂内、山内の案内をしてもらいました。浄土宗なのに親鸞上人の御像が祭っており、会津藩士の旧跡などを眺めながら解散しました。

お互いに古希も過ぎると寺院参詣も大きな意義がある事を改めて痛感したしだいです。

短期間のサイクルで 催しグルグル

高校四期 松田 祝三

私たち高四期では、在阪の思い当たる同期の人たち百名ほどに呼びかけて毎年夏の七、八月頃にサマーパーティー、十二月に忘年パーティーを、主として宝塚ホテルで開催しています。毎回おおよそ四十名前後の参加があり、定期化することで音信の輪の拡がりとともに親睦のチャンスへ期待が寄せられています。

サマーパーティーではハワイアンバンド、忘年パーティーでは内外のミュージシャンによるジャズバンドをそれぞれ招聘して軽い雰囲気を楽しむことにしていますが、既に高齢化しているといえる私たちには適度な社交の場となつて好評です。尚和会の同窓ではそれぞれの記念を機会として様々な催しが開かれています。私たちには十年、五年といったサイクルでは同期の間の情報は希薄過ぎるよう思えます。サ

イクルを短期間にぐるぐる回すことができれば、みんなの消息は実にはつきりと判ってきます。年二回私達の催しにはそんなメリットもあるのです。それにもう一つ、同期同士ではあっても演出によって社交的な雰囲気や味わうことで、一次的とはいえ気分は華やき、日常からの開放感に溢れ、お互いの笑顔に満たされていく健康的です。とりわけ女性には美容に良い効果が得られるのではないのでしょうか。

高四期の関東在住者の間では「グルメの会」が定期化していると聞きます。卒業後五十四年、全員七十二歳を越え、趣向を共にしながら交流を絶やさず深め続ける——想像するだけでも幸せな思いがふつふつとします。



高校七期 卒業五十周年記念同期会

理事一同

卒業五十周年の節目を記念して、平成十七年十月十六日（日）午後一時か

ら、リーガロイヤルホテルにて、同期会を開催しました。

七期生は、一組から九組までの四百四十名で卒業しましたが、当日は百八名の参加者があり、大賑いでした。世話役代表・関君の開会挨拶、物故者（先生七名、同期生四十六名）への黙祷。次いで、尚和会田中会長の祝辞をいただき、恩師水田先生からも感銘深いご挨拶を頂戴しました。また乾杯の音頭は、前東京支部長・井上君にお願いました。

食事・歓談の半ばには、同期生鈴木富美子さん（宝塚音楽学校）のご厚意に甘え、見事な歌を披露していただき、同期会に花を添えて下さいました。また全体写真及び各組毎の写真撮影では、山下真一君のお世話になりました。



お二人方、有難うございました。

賑やかな歓談が続くなか、あつという間に閉会の時刻となり、夫々、まだまだ話し足りない、名残りが尽きない感じで散会しました。またの機会には更に多くの皆様と再会できることを楽しみにしています。

高校十一期 東京在住卒業生同期会

東京支部世話役一同

二〇〇五年四月二十一日（木）東京品川駅前の「メルディエン・パシフィック・ホテル」において、高校十一期で東京近郊に在住している卒業生が参集して「東京支部同期会」を開催しました。

当日は、天候にも恵まれ、日ごろ関西で開催される同期会に出席出来ない



方たちも含めて、総勢二十四名が集まりました。大阪からは田中尚和会会長も含め、三名が参加しました。用意された料理に舌鼓をうちながら昔話に花を咲かせました。また、各人の近況報告などに感嘆したり、健康に気をつけた生活方法などのノウハウも披露されました。

約三時間に及ぶ会合は閉演になりましたが、それでも名残つきの方たちは、別の場所に移動していつまでも語り合ったようです。

今回が始めての試みでしたが、参加者から数年ごとに開いて欲しいとの希望もありましたので、世話役で検討する予定です。

同期会（桜会）の報告

定時制六期 中川 豊

出席された皆さん有難うございました。

昨年十一月十四日（月）午後〇時から三時、大阪弥生会館で会員五十七名中十六名が出席して「桜会」の同期会を開催しました。（高齢者の場合その日になっても欠席が出る）

前回、二〇〇三年十一月十八日（ホテルアイボリー、二十二名出席）

開会三十分前に受付に行ったところ既に二人が待っており、前回に会わなかったが誰君と誰君と名前が言えるほどハッキリと昔の面影が残っていました。

その内にどんどん集まり、何人かの固まりのなかで、ワイワイと会話がはじまり、定刻前からあちらこちらで親睦がはじまりました。

定刻に宴席がはじまり、形どりの

セレモニーの後に「自己紹介と近況報告」を全員が行いました。出席者は昨年（二〇〇五年）を前後して「古希」ですが、寺本敏夫先生だけはクログロした頭髪なので、七十八歳とは思えない若々しい印象を得ました。

樋口嘉章先生は、「八月末から体調をくずしており退院後家庭で療養中で、みんな健康に留意されたい」との欠席のハガキを頂きました。

近況報告の要約（欠席者の返事も含む）

- ・健康にこころがけている（規則正しい生活・ウォーキングなど）
- ・ボランティアをしている（高齢者の介護・地元の世話役など）
- ・趣味を楽しんでいる（ゴルフ・カラオケ・絵画・囲碁将棋など）
- ・コミュニケーション（いろいろな人と付き合っている心の健康を保っているなど）
- ・働いている（不定期ではあるが職業を持っているなど）

以上のとおり、生活の中にメリハリを取り入れて生きている

宴席はカラオケでは手拍子の混じる中で歌う者、そして笑いと驚きと、なごやかなムードの内に三時間が経ちましたが、共に過ごした学窓から五十年を迎えようとしている現在、それぞれが経験してきたものは違っても、今ここに集まっている時は同じ仲間だ、という気持ちが湧き上がったものと思います。

記念写真の後に、来年（二〇〇六年）は卒業後五十周年になるので、「十一月にこの場所にて再会する」ことを全員が約束していました。

そして今年、「生きていることのすばらしさを祝い」「卒業五十周年と古希を祝う会」にしたいと思います。むすびになりますが、同期会の活性化を目的とした助成金の一部をお役にたたせて頂き、本会の成功と親睦の糧となりましたことを報告し、お礼の申し上げます。

定時制第七期同窓会

幹事 速水和貴子

日時：平成十七年十一月二十三日

場所：宝塚 明月記

出席者：十五名

紅葉真つ只中第十二回「桜灯会」を雲雀ヶ丘ゴルフ場近くの小高い所にある「明日記」で開催致しました。

恩師を迎えて、卒業以来初参加の方も含めて昼食を楽しみました。

不参加の方々に近況報告をお願いし

ていた所、海外へ行く人、体調不良の人と様々でしたが、当日参加の方々は種々趣味を楽しみ、現在なお仕事をしている人、ウォーキングに、ダンスの教師をと皆様とてもお元気です。幹事様の参加者へのおみやげとして「皆様毎日笑っていますか？笑いは身体に良い、作り笑いでもいいのですよ」との言葉を頂き、笑いの中で次回集える事を楽しみにして散会致しました。

二年後には卒業五十周年を迎えます。

一泊を計画して多数の参加をと次期幹事さんは今から張り切っておられます。

楽しかった同期会

高定十三期 江本 元大

同期会は、春の入園・入学式、職場異動も落ち着いた平成十七年六月四日（土）午後四時半から、千里朝日阪急ビル二十二階の緑濃き箕面の山々の景観がすばらしいチャイナテーブルを会場に行いました。

参加者は、二十一名でした。私達十三期は、二十年ほど前から毎年同期会を開催して、毎回北海道・四国をはじめ遠くから会うのを楽しみにしているメンバーもいます。

私は、久しぶりに前回参加し、学友のみんなの顔を見た時、懐かしさのあまり何か胸に熱いものが込み上げてくるような気持ちになりました。

今回も、四十年ぶりに会えて本当に懐かしい人、また、大病を患って退院の直後にもかかわらず参加した人もおり、「学友っていいなあ」としみじみ思いました。

宴会は、始まった途端ワイワイガヤ

ガヤ……。その昔、お互いに昼の仕事の疲れをおして、夜学校に通った仲間同志であるがゆえの深い絆が蘇り、お世話になった先生方のこと、彼のことが彼女のことや個人のプライバシーの話も飛び出し、大いに盛り上がりました。

また今年、殆どの人が六十歳定年を迎え、続けて仕事を人・しない人さまざまですが、第二の人生の節目として、夢とロマンを求めてスタートする年でもあります。これからの人生をどう生きるかといった真面目な話にも花が咲き、非常に有意義で感慨深いものになりました。

さらに、「折角の機会なので、コメントや近況報告をしてもらった」との提案があり、時間の関係で代表して四名から。一人目は、高齢化に向かう中で、この強い仲間意識を持つて互いに助け合おうというコメント。二人目は、病氣と退院後の様子について。三人目は、退職後の外郭団体での活躍と団体



のアピール。四人目は、尚和会の当面の行事等。お陰で、柔らかな話・堅い話など中味の濃い同期会になりました。

話は際限なく続き、ひとりも黙っている人はいないほどでしたが、時間となり、次回の幹事を決めて一次会を終えました。

二次会は、近くの「カラオケ」で、それぞれが好きな歌を唱い、これまた大盛況。午後九時前に、来年の再会を約して散会しました。

本当に楽しく思い出に残る同期会で

高校十六期 還暦記念誌

十六期還暦記念誌出版委員会

還暦記念誌を十六期でつくるという話が出てから、五年を経て昨年十月に出版までこぎつけました。本作りは全員の素人ばかりが担当し、字の大きさ（小さかったら読む気がしない）の設定、昔の写真の収集など難儀しました。が、十六期生に文字を書く人、デザインやイラストを造る人が居て、全て手作りで本が作成できました。発送大会では、皆が感動！

先生から十四通、十六期生から五十二通、故人の思い出十七通の寄稿を得て、写真十六頁を含み百七十二頁の冊子となりました。還暦は定年退職など人生の節目であり、各自がそれぞれ思うことを書き連ねてくれました。先生からのメッセージは人生の先輩の言葉として、この年になってことさらに響きます。

十六期全員に配布し、桜塚高校と尚和会に寄付いたしましたが、なお残部がありますので各期の方で参考にした

いとのこと希望がありましたら、お譲りしますのでご連絡ください。

連絡先

中務公子〇六六八五八四五〇九

高校三十二期 卒業二十五周年記念同期会

幹事 金井 晶子

日時：平成十七年八月十四日

会場：新大阪江坂東急イン

母校、桜塚高校を卒業して四半世紀の平成十七年八月十四日に新大阪江坂東急インにて記念の同期会を開催しました。当日はうだるような真夏の暑



25年の歳月を感じさせないほど、皆さん若くて元気いっぱいでした。次回開催は30周年？毎年して欲しいという声もありましたよ。次回の幹事さん、よろしくお願ひしますね。by Akiko

さにもかかわらず、七十四名の同期生が集まり会場は熱気であふれかえっていました。関東や東北からはもちろんのこと、異国の北京からもあるばる駆けつけてくれました。また、恩師の方も忙しい中をご来賓賜り、宇野先生、木村先生、下沖先生、田中先生、辻内先生、原田先生にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

当日の式次第は、なぜか司会者の入場セレモニーの後、楽しく歓談のひとときを過ごしました。在学中から親交のあった人はもちろんのこと、なかった人でも楽しくうち解けてお話が出来たのは母校での三年間の時間を共有したからでしょうか。同期生とはかくも楽しいものかと改めて感じました。続いてジャンケンゲームにて景品の争奪戦が繰り広げられました。景品は幹事が仕事関係で用意したもので、エステー化学、キリン、三井生命からそれぞれ調達したものでした。さらに先生方のスピーチが始まりました。先生方のお姿は変わっていたものの、お話しただくその様子は在学中と変わらず、二十五年の時間を逆戻りしたような懐かしい感じに浸りながら楽しく拝聴しました。最後には全員で校歌を斉唱し、楽しいひとときに幕を引きました。その後は有志にて、二次会から四次会まで長い夜は熱く盛り上がりながら続きました。

なお、会場は二十四期生の岡本さんのお世話になりました。ドリンクは山村君の尽力により、飲み放題となりました。

今回は二〇一〇年に三十周年を開催する予定になっていますので、よろしく願いいたします。(池田紀和記)

同期会予告

高女一期生満八十一歳通過記念同期会を開催

日時：平成十八年六月十八日(日)

十二時

会場：ホテルアイボリー

来年の七十周年にむけて元気でおいししましょう。

幹事 樋口由貴恵他五名

高校三期会開催予告(卒業五十五周年)

日時：平成十八年十月十九日(木)

午後一時より

会場：東京、原宿、南国酒家本館

JR山手線原宿駅より徒歩三分
程で明治神宮に隣接

会費：七、〇〇〇円

幹事 内海 順夫 長居 靖

岡田 昌子 宮本須賀子

高校八期(一九五六年卒)

卒業五十周年記念の集い 開催!!

日時：平成十八年六月三日(土)

正午開会(十一時半受付)

会場：阪急インターナショナル六階

お元気ですか。人生七十年、古来稀なり。私達もいつの間にかこの歳をむかえようとしています。益々の健康と幸せを願いお誘い合わせの上多数の参加をお待ちしております。詳細は名簿と共に四月にお届けしております。不着の方は事務局までご一報下さい。

事務局

森田司朗 〇六―六八四―一三七〇二

高校十一期同期会

日時：平成十八年十一月四日(土)

十三時開宴(受付は十二時半より)

会場：新大阪江坂東急イン

会費：一〇、〇〇〇円

九月末頃に案内します。

世話役代表 古田和久

高校十三期「卒業四十五周年同期会」

日時：平成十八年十月二十八日(土)

午後四時

会場：ホテル・ヴィアーレ大阪

(地下鉄御堂筋線・本町駅すぐ)

詳細は後日(夏ごろ)ご案内致します。当初より使用していた大阪東急ホテルは今年三月末で閉鎖された為、場所を変えております。従来同様なつかしいひとときを持つべく、多数のご出席をお願い致します。

幹事 細川和彦

高校二十八期卒業三十周年同窓会

まだ、これから準備をする為、時間や場所は未定ですがとりあえず

日時：平成十八年八月十二日(土)

夕刻より

場所：大阪市内のホテル

におきまして、会費は未定で、

幹事 上元一泰

で行うつもりです。

尚、詳細は、住所の判明している方に、ハガキ等で連絡させていただきますのでお誘いあわせの上、御参加下さい。

『第五回尚和会東京支部総会・懇親会』開催のお知らせ

日時：平成十八年十二月三日(日)

場所：ホテルパシフィック東京

一階宴会場(白珠)

JR東京品川駅高輪口正面

(港区高輪三―二―三三)

総会内容については検討中です。

概要決定次第お知らせします。

尚和会東京支部

支部長 斉藤良和(高校十一期)

校旗の制定について

高校十六期 吉田 圭助

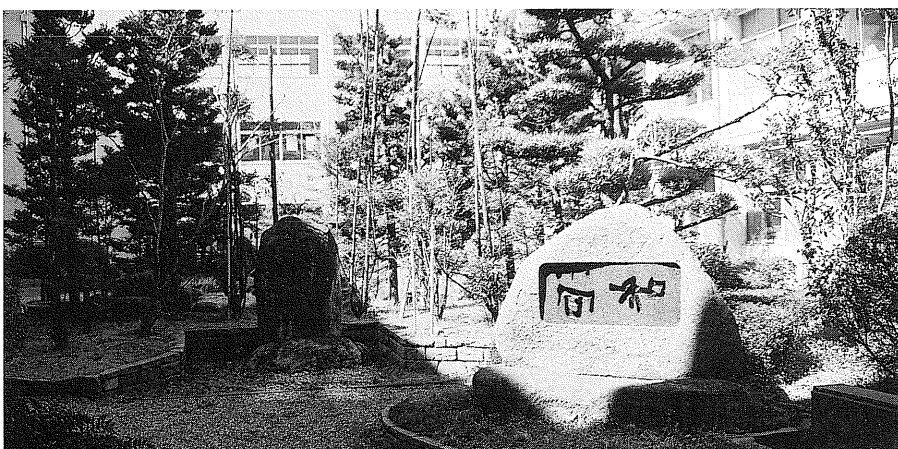
昭和二十三年に男女共学になって新しく校旗を制定する必要があったと思いますが、昭和三十七年十二月現在では新しく制定・制作されていませんでした。

丁度この時の生徒自治会委員は十六期生で構成されておりましたが、自治会の行事で校旗を掲げようとしたところ校旗が無いことに気づきました。

そこで、校旗を作ろうと言うことになりましたが、大阪府教育委員会や学校によるものでなく自分たちによる制作を目指したのです。

ところが当時の自治会執行部では、制作費が不足だったのです。そこで知恵を出し合って考えたのは生徒の浄財を募ることでした。その結果は必要額をオーバーするほど集まりました。勿論諸先生方の個人的なご賛同ご支援をいただいたことを申し添えます。

当時としては最高品で豊中高等女学校の校旗と同じ大きさと、似通った立派な新校旗を制定・作成することができました。



ご存知の通り、グリーンを基調とした厚地の布地にさくらの校章が金糸の刺繍で二重に盛り上がった重厚なもので、三辺は同じく錦糸のモールで飾られており、現在も良好な保管のおかげで虫にも喰われず、美しく輝いていて、各種行事に使用されています。その後、薄手の布地の大きな応援旗が制作され使用されていますが、校旗はそのまま現在も使用されています。

お便りから



平成十七年四月から平成十八年三月までにお送り頂いたものの中から掲載しています。

旧職 大西 佳子
最初の会員名簿を黒田先生と作り
ました。現在では重くて持てない程で
すね。益々の御発展を祈ります。

旧職 伴野 彰子

会報で桜塚高校と同窓会の御健在
を知り、私が在職した昭和二十二年
二十三年の学校周辺を懐かしく思い出
します。私はいつの間にか八十二歳と
なりましたが、割合元気で、大阪より
外国の方が近い感じで、年二・三回は
海外に出かけています。東京在住の桜
花会の高女八期の方とは毎年お目にか
かる機会があり、数名の方々とは年
二・三回ハイキング旅行を二十年以上
つづけています。

旧職 水田 紀久

毎年、総会と私の同窓会とが重な
り、心ならずも岡町駅を同じ日に通過
致し、申し訳ございません。

高女三期 俣野 加代

美しい会報有難うございました。
紙面、字体を大きく、なつかしい通学
路の写真等があり、嬉しかったです。
編集の係の皆様の御苦勞に感謝いたし
ます。

高女三期 石田 暎子

お世話様でございます。会報誌が
大きくて、保存しやすいですね。あり
がとうございます。

高女四期 広谷 晴子

紙面が大きくなり大変読みやすく
感じました。毎年有難うございます。

高女四期 勝野 瑤子

尚和会々報ありがとうございます。
た。(二〇〇五年号)殊に四期生の思
い出、なつかしく心深くよませて頂き
ました。来年五十周年の会御盛會をお
祈り申し上げます。

高女五期 渡辺 康子

豊中高女を卒業してから六十年が
過ぎ喜寿を迎えましたが元気に暮らし
ております。先日五期生会は大変盛
會で多くのお友達に逢えて嬉しゅうご
ざいました。

高女五期 武田 祥代

卒業後六十年夢の様な歳月が過ぎ、
送って頂く会報をなつかしく、読ませ
て頂いて居ります。

高女五期 北村 嘉子

私達五期生は卒業後六十年が経ち
ました。尚和会も今後発展されますこ
とを、祈って居ります。

高女五期 林 道子

会報送付下さりありがとうございます。
ました。通学路点描なつかしく拝見
いたしました。勉学に運動に共に発展を
祈っています。

高女七期 渡辺 良子

尚和会会報ありがとうございます。
ワンサイズ大きくなった紙面・字体で
読み易く喜んで居ります。表紙の旧高
女時代の校章大へんなつかしゅうござ

いました。

高二期 滝本 操

会報ありがとうございます。私は高
二期生で「ほむら野に立つ」を思い、
又ぜひ欲しいと思います。購入の方法
を、お知らせ頂ければ幸いです。

高二期 岡本 秀子

会報ありがとうございます。通
学路点描は特になつかしく岡町の商店
街を遅刻しそうになって走った事が思
い出されました。今回の中味も濃く
大変よみ応えがありました。

高二期 伊藤 発子

美しい尚和会会報ご送付いただき
ありがとうございます。

高四期 齋藤 節子

七十歳以上は終身会員としてまと
めて一〇、〇〇〇円位振込みが出来
るとかしていただけると有難いですが。

高四期 林 正宏

毎年五月連休中に会報が着き、懐
かしく全ページを読んで居ります。役
員の方々に厚く感謝して、協力金を振
り込んでます。

高五期 奴 公夫

二〇〇四年の東京支部総会・懇親
会にはじめて出席しましたが、高五期
生が一人も居らず、淋しかったです。
残念!!

高五期 中島 光夫

豊中を離れて四十八年、通学路点
描なつかしく拝見しました。また、同

期会報告等毎回楽しく、拝読していま
す。

高六期 石井 禮一

卒業五十周年祝賀会参加申し込み
ましたが、台風のため出席できません
でした。次回参加しますヨ。

高六期 西田 明子

いつもお世話になり有難うござい
ます。遠く離れて居ります。なつかし
い想いで会報を読ませていただいてい
ます。

高七期 仁科やよい

久しぶりに会報お送り下さいまし
てありがとうございます。懐かしい
先輩の名も発見し元気づけられまし
た。ご病氣と聞いていた同級生の名前
もあり、お元氣になられたようだと
うれしく思います。

高七期 井上 真一

会報代と協力金。尚和会の益々の
発展を祈念。東京支部への今後の支援
を乞う。よろしく。

高七期 仁木 悦子

五月十日同期会（首都圏在住者）
出席しました。医者より為になるお話
を一杯聞いて若返りました。

高七期 西田 博一

旧東海道東京日本橋をめぐしてウ
ォーキングしています。何年先になる
やら……頑張っています。

高七期 富岡 徹

Vol.53号送付を深謝します。在

学時の三年三組の担任の先生は、近松
淳一先生でした。当時は、ラジオの
「君の名は」が全盛期で、春樹は、真
知子さんとハッピーエンドになるかが
心配だ。と正直な先生の一面を垣間見
ました。校歌のように、さわやかに生
きていこうと思っております。

◎新緑に大きく流れる夏の雲

高八期 大内 雍子

毎年としを重ねるに従い身体に悪
い所が一つずつ増えて行きますがボラ
ンティアで忙しく過ごしています。

高九期 美作 純古

心配事や、嬉しい事の日々の中で
老化現象にとまどいながら、なんと
か、元氣に過ごしています。

高十期 山口寿三枝

いつも会報ありがとうございます。
平成十七年八月二十日茶道部五十周年
記念式典が多数の方の御来場を賜り無
事終了致しました。心より感謝させて
いただきます。ありがとうございます。
た。

高十期 谷 辰子

桜の季節になりますと、校舎を思
い出します。会報の表紙懐かしいです
ね！ 役員の方々にはいつもお世話
頂いて感謝しております。

高十一期 室井 浩子

大変御世話様になつております。
同期会に出席出来て、大変嬉しゅうご
ざいました。皆様どうぞ御壮健で。

高十一期 竹島 護
役員の皆様、御苦勞さまです。新
緑と共に届く「会報」を、有難うご座
居ます。

高十二期 阿倍 佳隆

第二の人生を歩み会社勤めとは異
なつた楽しい人生を送つてます。昔、
机を並べた仲間とも学生生活を懐かし
く語り合いたい、今日この頃です。尚
和会の発展を祈る。

高十五期 上田 幸子

三十八年間の教職生活満了しまし
た。心に少しゆとりができ第二の人生
をエンジョイしたいものです。

高十六期 渡邊 源治

尚和会々報、読ませていただきました
した。私もいよいよ年寄りの仲間入
り。体力低下は当たり前。それよりな
によりボケないようにがんばりたいと
思っています。ボケてしまったら人間
失格ですものネ！

高二十七期 奥住 尚哉

出張多く会合には出席できていま
せんが、会報にて皆様の近況を知りお
いています。

高二十七期 納 容子

会報ありがとうございます。昨年
秋の同期会、とても楽しく過ごさせて
いただきました。井上まさ先生の若さ
にあやかりたい！！

高二十九期 小山 智美

平岡忠君、石原知恵子さん、いつ
も協力金されていますね。元気でいら

つしやると心がなごみます。

高二十九期 吉田 薫

サクラジェンヌ二十九期生の皆さ
ん、お元気ですか？ 今年も母校の
桜に負けず咲き誇りましょうね！

高三十期 門田 晃代

ワンサイズ大きくなつた会報を有
難うございます！！ 昨年、銀婚式を
迎えた私にはとても読みやすく助かり
ました（笑）母校の益々の発展をお祈
りしております。

高三十二期 田和久美子

会報の写真に懐かしい先生のお顔
を見つけ、うれしく見させていただき
ました。ありがとうございます。

高三十五期 森本 智子（旧姓山田）

甥っ子は桜塚の二年生になり、テ
ニス部で頑張っているようです。町で
桜塚の制服を見ると、何だかうれしく
なります。同窓生の方元気でし
ょうか？ お便りの中のお名前前に旧姓が
入っていると近況がわかってうれしい
のですが…。

高三十六期 村上佳津子

先日、夫の出張についていたら、
「マダム」…と呼ばれました。もう
「マドモアゼル」ではない自分に、涙。

高三十六期 吉田 豊

先日、部活（漫画研究部、現イラ
ストレーション研究会）の後輩と会う
機会がありました。HP上ではお互い
やりとりすることはありましたが、実
際に会うのは初めてなのでとても嬉し

かったです。

高三十七期 松下 和子

高三十一期の前田様が二十歳から
〇歳まで六人のお母様だというお便り
を読んで、高一・中二・小五・年少の
四人の母の私もがんばらねば！と思い
ました。

定七期 佐々木好一

毎年、春の風が心地良く過ごしや
すい季節に新たな風を届けられる「尚
和会報」をお世話して下さる担当者の
エネルギーに感謝の気持ちに満たされ
ています。「昔はよかったなあ」とい
う懐古。もう五十年も昔のことです。
豊かな余韻と勇氣・希望…夢をアリガ
トウ！ 「ふるさととは遠きにありて
思うもの…」が私の実感です。

平成十七年 物故者芳名

（平成17年1月1日～12月31日まで）

旧職員	
志賀福太郎	17・10・23
馬場 文子	17・10・25
高女一期	
滝 せつ子（三浦）	17・4・14
橋本 磯子（西村）	17・10
玉井知代子（古川）	17・11・14
幾尾美代子（遠藤）	17・11
高女二期	
神保 和子（杉原）	17・2
高女三期	
松溪 彰子（中村）	17・7・30
高女四期	
五十嵐キヌエ（八川）	17・2・13
馬場恵美子（汲田）	17・8
佐野 加岳（伊藤和加子）	17・9・14
藤原 秀子（稲池）	17・12・16

山岳会OB会だより

恩師の墓参り
（第八十三回の集まり）

高校三期 高谷 善雄

山岳会OB会では〇六年四月一
日、故後藤敬直先生の七回忌に因ん
で福井市内の寺へ墓参りしてしまし
た。参加したのは高谷（高三期）、三
枝、山本（高十一期）、枝（高十八
期）の四人でした。

福井はまだ桜が咲かず、桜が満開
に近い大阪からやってくると少し寂
しい思いがしましたが、念願の墓参
りができて四人の心は十分満ち足り



残雪の多い
白馬山麓の
夜は友を持
つという幸
せいっぱい
で暮れてい
きました。

高女五期
多田 光子（佐伯）
17・10

高三期
勝間田嘉和
濱 和吉
17・1・21

上島 康弘
箕田正次郎
17・4・26

南部 隆
山崎 睦子（高木）
17・5・2

不明
17・9・14

藤原 昭二
菅原 慶次
17・10・7

高七期
駒田 利雄
17・8・17

掛川ミズミ
高八期
17・11・13

岡 靖之介
上神 皓允
17・6・16

口羽 正子（奥野）
江指 助
17・6・17

高九期
萩原 康爾
17・9・13

小原 泰彦
高十五期
17・12・28

下村嘉代子
河本 啓司
17・1・1・20

高十六期
碓 茲
17・3・15

安井久美子
高十七期
17・4・4

松山 繁樹
高十八期
17・3・1

寺田美代子（田川）
高二十二期
17・9・22

西浜 京子（近藤）
高二十九期
17・8・26

入川 淑子
ご冥福をお祈り申し上げます。
17・5・2

（尚和会宛に報告のありました方のみ掲載）
17・10・14

平成十七年度 会報代・協力金

◆協力金をありがとうございました◆
(金額は納入合計額)

[illegible]

[illegible]

平成十七年度総会・懇親会

行事委員 柳井真知子

平成十七年度の総会・懇親会は、五月十五日（日）に、ホテル・アイボリーにて、開催されました。

総会では、昨年着任されました、西郷校長先生より熱意あふれる御挨拶を頂き、又懇親会では、前々会長の谷田探成さん（高校三期）のお元氣一杯の乾杯で和やかに始まりました。



校歌斉唱



アトラクション バイオリン演奏 高32期 日々浩一氏

アトラクションの方では、高校三十二期の日比浩一さんのバイオリン演奏会で、「ヨーロッパ音楽の旅」と題して、各国の曲を演奏して下さい、又高校時代のとても楽しいエピソードに、会場は、笑いのうずなりとなりました。

アンコール曲では、「冬のソナタ」の曲を演奏して頂き、皆様、うっとりとしておりました。

今年の総会（五月二十一日）では、テレビの旅番組の「世界の車窓から」で流れる軽快なメロディーを演奏されています、アコーディオン奏者のかとうかなさんをお招きしております。

「演奏を聴いて笑顔で帰ってもらえることが、私にとって一番嬉しい」とお話しになる、とっても可愛い、かとうかなさんです。

皆様、どうぞお楽しみに、お友達お誘い合わせて、ぜひ御参加下さいませよう、お願い致します。

お昼も大分過ぎ、お腹も空いてきた頃、中央部が回転する大きな円卓に料理が運ばれ、谷田元会長の乾杯の音頭で懇親会が始まったのです。

平成十七年度新年理事会

行事担当副会長 中村千穂子

平成十八年一月十五日、新年理事会の日でしたが、暦の上では小正月で左義長、どんど焼の日でもあります。そこで私は少し早目に家を出て、近くの稲荷神社へお詣りし、多勢の人に囲まれてパチパチ燃えるどんど焼に、外してきた我家の注連縄も加えて一年の無事を祈ってから駅へ向かいました。

会場のヒルトンホテル四階では、受付に名札を並べると次々と理事の方が来られ、校長先生をはじめ来賓の方々五名、理事五十五名の合わせて六十名の方が御出席下さいました。

定刻の十二時に、田辺副会長の開会の辞に始まり、田中会長の挨拶、続い



編集後記

卒業以来四十三年。かがやけるさつき大空。で始まる懐かしいあの校歌を、一日に二回唄う機会を得たのは初めてでした。母校の全日制と定時制の卒業式に来賓出席したためですが、定時制の式では中年の男女生徒や皆勤生徒もいて感動しました。

▼昨年発行の会報について、「お便りから」の中に読み易くなったとのコメントが数通あつて喜んでおります。▼昭和十二年一月（一九三七年）大阪市東成区に「大阪府立第十四高等学校」が設置され、その四月に学級数五クラスで始業式を挙行したのが我が母校です。来年で創立七十周年を迎えるにあたり、今後とも会員の皆様のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。最後に、ご寄稿下さった会員、学校関係者の方々には厚く御礼申し上げます。

広報委員長 大島 光昭